

文川淵美里
絵 司果歩



しらないのまち



しらないのまち

文川淵美里 絵 司果歩





文 川淵 美里 絵 圖司 果歩

なきながらいえをとび出して
おきに入りのジャングルのこうえんをはしってはしって
ぼくはきがついたらしらないまちにいた。



ないですつきりしたほくは
うちにかえろうとするのだけれど
めじるしにしてたこうえんもお店も
どれだけあるいても見つからない。
しらないみちに しらないかんばん
じめんもしらないふみごごち

ひらき
下たい



きのいえだらけのみちをすすむと
むこうから人がやってきた。
ふくはへんでこ しらないふくで
かおはまっくら ごつごつしてた。
「わかった ここは おばけのまちだ」





「しらないのまちは
みんなにしらない、
って言われたものが
やってくるんだ。」

「わたしもむかしはみんなのいえにいたんだよ」
「へえ。そんなのしらなかつたや。」

「ぼく、おじさんみたことないんだもの」

「ぼくがそういうと、おじさんはわらってくびをかたむけた。」

「あたまからリン、ときみしいおとがした。」

「おじさん さみしいんだね」

「ああ、さみしいよ。」

みんながわたしのことをしらないと言うたび

わたしはどんどんさびていくようなきもちになるんだ」

おじさんは、かおのまんなかにあるすうじをさわりながら
けどね、とつぶけた。





「わたしがわすれられるというのはよのなががまえにすすんだってことでもあるんだ。きみたちのいえにはでんわがある。わたしよりずっとべんりできれいなでんわだ。」



わたしはわすれられてずっとここにいてるけれどきみたちのいえにいてでんわはわたしがいないとうまれなかった。わたしはそれがほこらしくてたまらないのさ」

「ふうん。よくわからないけど
ものってたいへんなんだね。
ねえ、そろそろぼくうちにかえりたいんだ。
どうしたらいいかおしえてよ」

「ああ おしえてあげようとも。えっとねえ」


そのとき、おじさんのあたまが
りんりりりんとなった。
とたんにおじさんは

「でんわだ でんわだ でんわです」
とはしつていって





まっかになった
じめんに ほつんと
ほくのかげだけが
のこった。

An illustration of a young girl with short black hair, wearing a green long-sleeved shirt. She has a blue dragon-like creature with horns and a tail on her head. She is looking to the right with a determined expression, her mouth open as if shouting. The background is a dark red color with several yellow and purple curved shapes floating around. A large, light-colored speech bubble is on the right side of the image, containing Japanese text.

「ゆうやけだ ゆうやけがきた」
ぼくはあわててはしったけれど
どこにいてもうちはなくて
どこにいてもおかあさんはいなくて
ぐにぐに ぺらぺら へんなのばかりで
なみだがこぼれたそのときに
あたまのうえからこえがした。



「きみはどうしてここにきたんだい」

みたことなくて、しらないけれど


ごつごつしてない、べらべらでもない

ふつうの、しわくちやの、おじいさんだった。

「おじいさん、ほく、おうちにかえりたいんだ。


なんで、ここにきたのか、わかんないんだ」





「ああ ああ それはかわいいそうに。
ほら、おうちには こっちだよ」

おじいさんはほくのをにぎって
そうしてふたりで とぼとぼあるいた。



「おじいさん ぼく、おもいだしたよ。
ぼくね、おかあさんとけんかしたんだ。
それでね、あんたなんか 知らないっていわれたんだよ」

「おやおや、そうだったのかい。
それはきつと 知らないのまちが かんちがいをしたんだね。
だいじょうぶ。おかあさんはきみのことをおぼえてるし
おかあさんはきみのことはだいすきだよ」

だからね、ちゃんとかえりなさい。
おかあさんともなかよくね。
おじいさんはそういって、ぼくのあたまをさらりとなでた。

きがついたら ほくはうちにいた。
かいたんのしたから
おかあさんによばれたきがして
ほくはいそいで かいたんをおりた。

何回も

How



「おかあさん」

ぼくがさげんだら、おかあさんはびっくりしていた。

「あのね、ごめんね、ぼくね、そのね」

「ああああ、こわいゆめでもみたの？」

ねえ、ところで、これを見て」

おかあさんは、おおきながくぶちをとりだして

「これね、あなたのひいおじいちゃんよ。

そうじをしてたら、でてきたの」





「あつ、あのおじいちゃんだ！」

「あらあら、ほんとにねほけてるのね。

あなたは ひいおじいちゃんにあったことも

はなしたこともないでしょう？

なんにも知らない はずでしょう？」

「うん。知らない。…だからね、」



「しらないから、おしえてほしいな！」

しらないのまち

二〇二三年十月二日 初版第二刷発行

著者 文／川淵美里

絵／圖司果歩

発行者 11V0049 圖司果歩

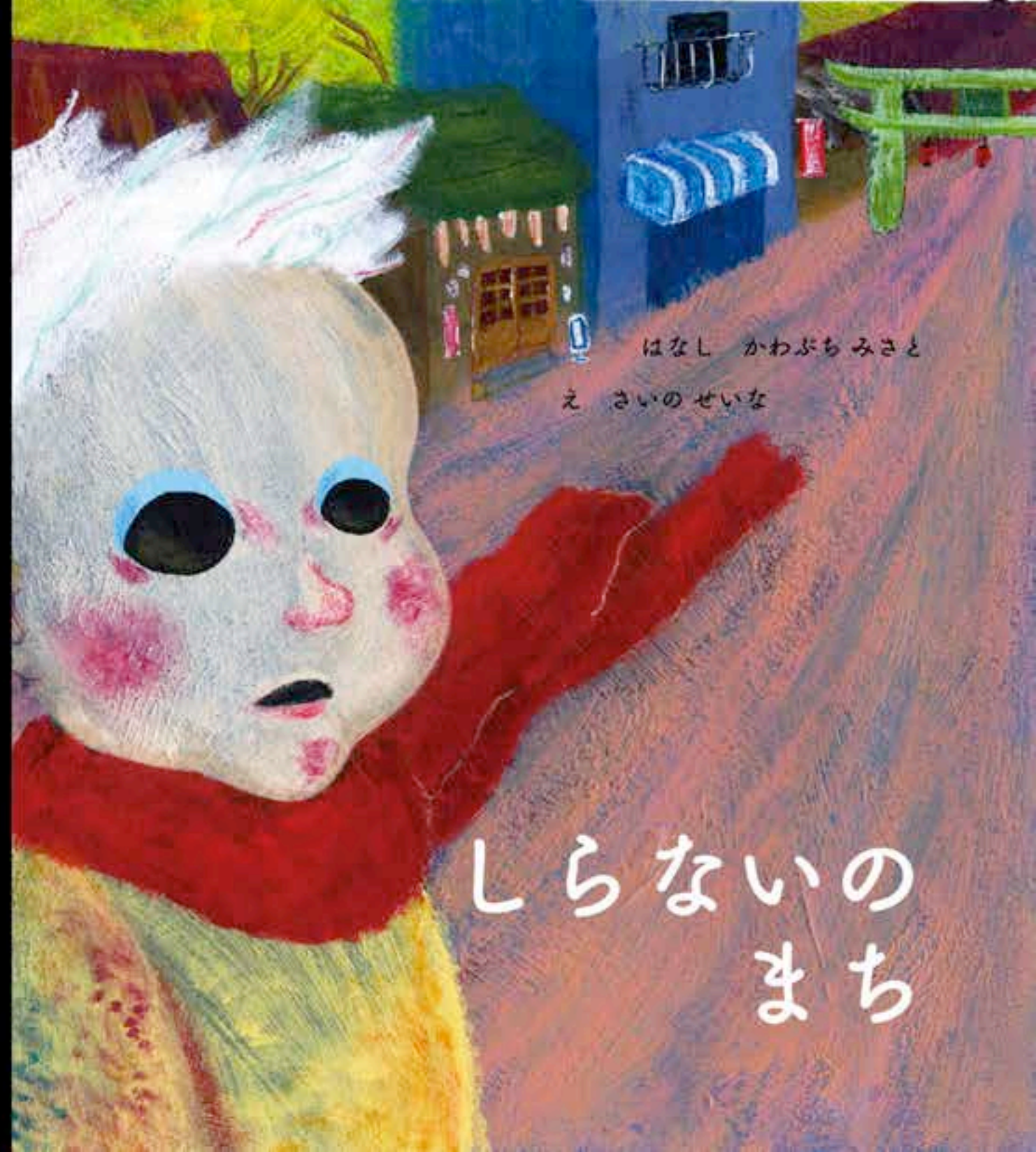
発行所 神戸芸術工科大学



しらないのまち

はなし かわぶちみさと

え さいのせいな




はなし かわぶちみさと
え さいのせいな

しらないの
まち

しらないのまち

はなし かわぶちみさと え さいのせいな





なきながらいえをとび出して
おきに入りのジャングルのこうえんをはしってはしって
ぼくはきがついたらしらないまちにいた。



ないですっきりしたぼくは うちにかえろうとするのだけれど
めじるしにしたたこうえんもお店も どれだけあるいても見つからない。
知らないみちに 知らないかんぼん じめんもしらないふみごち

きのいえだらけのみちをすすむと
むこうから人がやってきた
ふくはへんてこ しらないふくで
かおはまっくろ ごっごつしてた
「わかった ここは おぼけのまちだ」



「おじさん おじさん おばけのおじさん
ぼく うちにかえりたいんだ」
ごつごつおばけはわらっていった
「わたしのなまえはくろでんわ。
お化けじゃなくて、くろでんわ。
ここはふしぎな しらないのまち」





「知らないのまちは、みんなに知らない、って言われたものがやってくるんだ。
わたしもむかしはみんなのいえにいたんだよ」
「へえ。そんなのしらなかったや。ぼく、おじさんみたことないんだもの」
ぼくがそう言うと、おじさんはわらってくびをかたむけた。
あたまからリン、とさみしいおとがした。

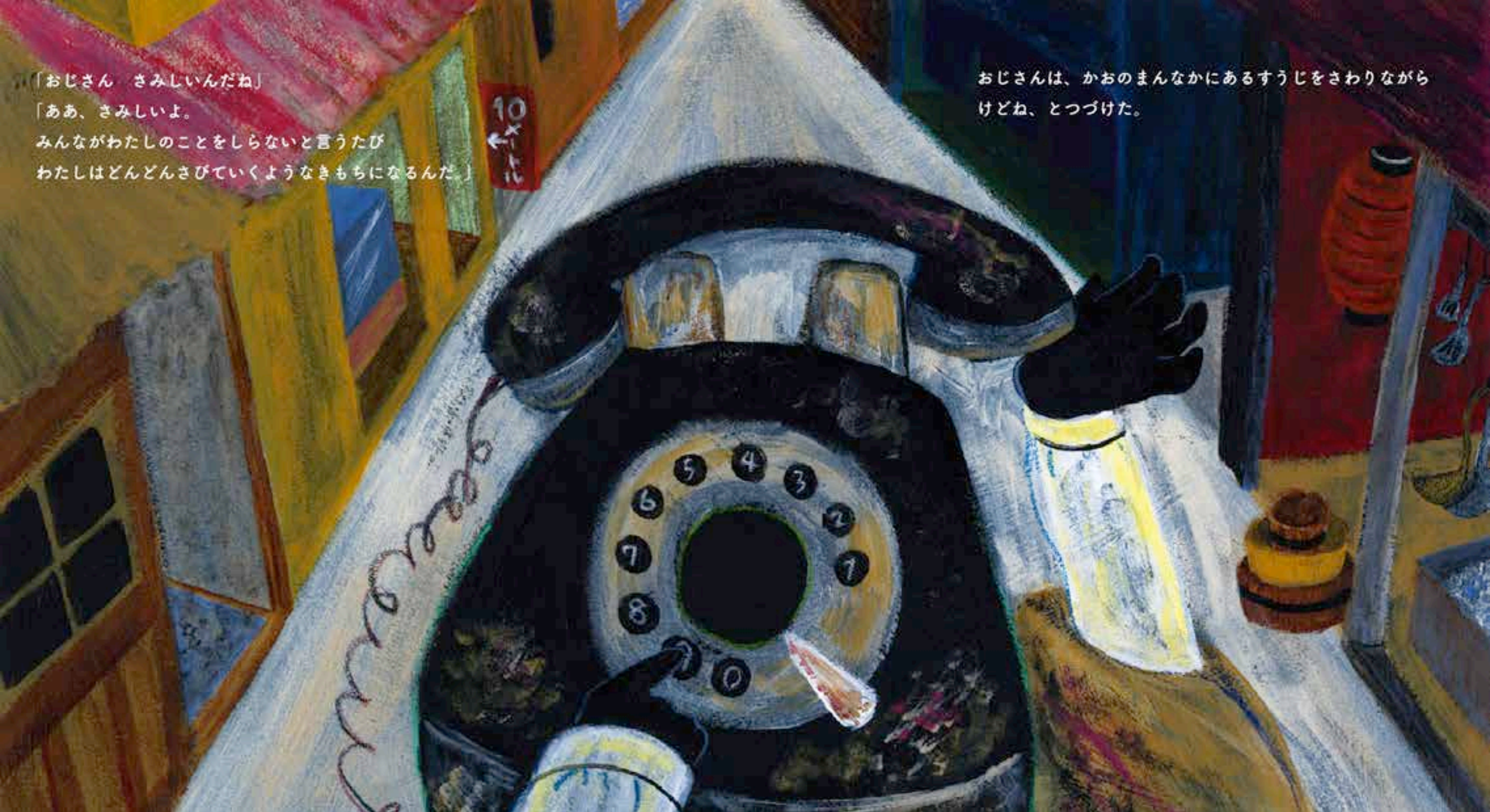
「おじさん さみしいんだね」

「ああ、さみしいよ。

みんながわたしのことをしらないと言うたび

わたしはどんどんさびていくようなきもちになるんだ。」

おじさんは、かおのまんなかにあるすうじをさわりながら
けどね、とつづけた。





「わたしがわすれられるというのは、まのなかがまえにすすんだってことでもあるんだ。
きみたちのいえにはでんわがある。わたしよりずっとべんりできれいなでんわだ。

わたしはわすれられてずっとここにいるけれど、
きみたちのいえにいるでんわはわたしがいないとうまれなかった。
わたしはそれがほこらしくてたまらないのさ。」



「ふうん。よくわからないけど
ものってたいへんなんだね。
ねえ、そろそろぼくうちにかえりたいんだ。
どうしたらいいかおしえてよ」
「ああ おしえてあげようとも。えっとねえ」
そのとき、おじさんのあたまがりんりりりんとなった。



とたんにおじさんは
「でんわだ でんわだ でんわです」と
はしって行って



まっかになった　じめん　ほつんと
ぼくのかげだけが　のこった





「ゆうやけだ ゆうやけがきた」

ぼくはあわててはしったけれど

どこにいってもうちはなくて

どこにいってもおかあさんはいなくて

ぐにぐに べらべら へんなのばかりで

なみだがこぼれたそのときに

あたまのうえからこえがした



「きみはどうして ここにきたんだい」

みたことなくて しらないけれど ごつごつしてない べらべらでもない

ふつうの、しわくちゃの おじいさんだった



「おじいさん ぼく おうちにかえりたいんだ

なんでここにきたのか わかんないんだ」



「ああ ああ それはかわいそうに
ほら、おうちは こっちだよ」
おじいさんさんはぼくのをにぎって
そうしてふたりで とぼとぼあるいた

A painting of a hand wearing a purple glove, reaching out from the right side of the frame. The background is a textured, warm-toned wash of orange and yellow. The hand is positioned as if about to touch or hold something.

「おじいさん ぼく、おもいだしたよ

ぼくね、おかあさんとけんかしたんだ。

それでね、あんたなんか しらないっていわれたんだよ」

「おやおや、そうだったのかい

それはきっと しらないのまちが かんちがいをしたんだね


だいじょうぶ、おかあさんはきみのことをおぼえてるし

おかあさんはきみのことはだいすきだよ」

だからね、ちゃんとかえりなさい。

おかあさんともなかよくね。

おじいさんはそう言って、ぼくのあたまをさらりとなでた。



きがついたら ぼくはうちにいた。

かいだんのしたから おかあさんによぼれたきがして
ぼくはいそいで かいだんをおりた

「おかあさん」

ぼくがさげんだら、おかあさんはびっくりしていた。

「あのね、ごめんね、ぼくね、そのね」

「あらあら、こわいゆめでもみたの？」

ねえ、ところで これをみて」

おかあさんは おおきなぐぶちをとりだして

「これね、あなたのひいおじいちゃんよ。

そうじをしてたら でてきたの」



「あっ、あのおじいちゃんだ！」

「あらあら、ほんとにねぼけてるのね。

あなたは ひいおじいちゃんにあったことも はなしたこともないでしょう？

なんにも知らない はずでしょう？」

「うん。知らない。・・・だからね。」





「知らないから、おしえてほしいな！」



しらないのまち

はなし かわぶちみさと

と さいのせいな

2013年9月23日 第一刷発行

発行者 才野星奈

印刷所 神戸芸術工科大学

本文 縦20.5×横36cm

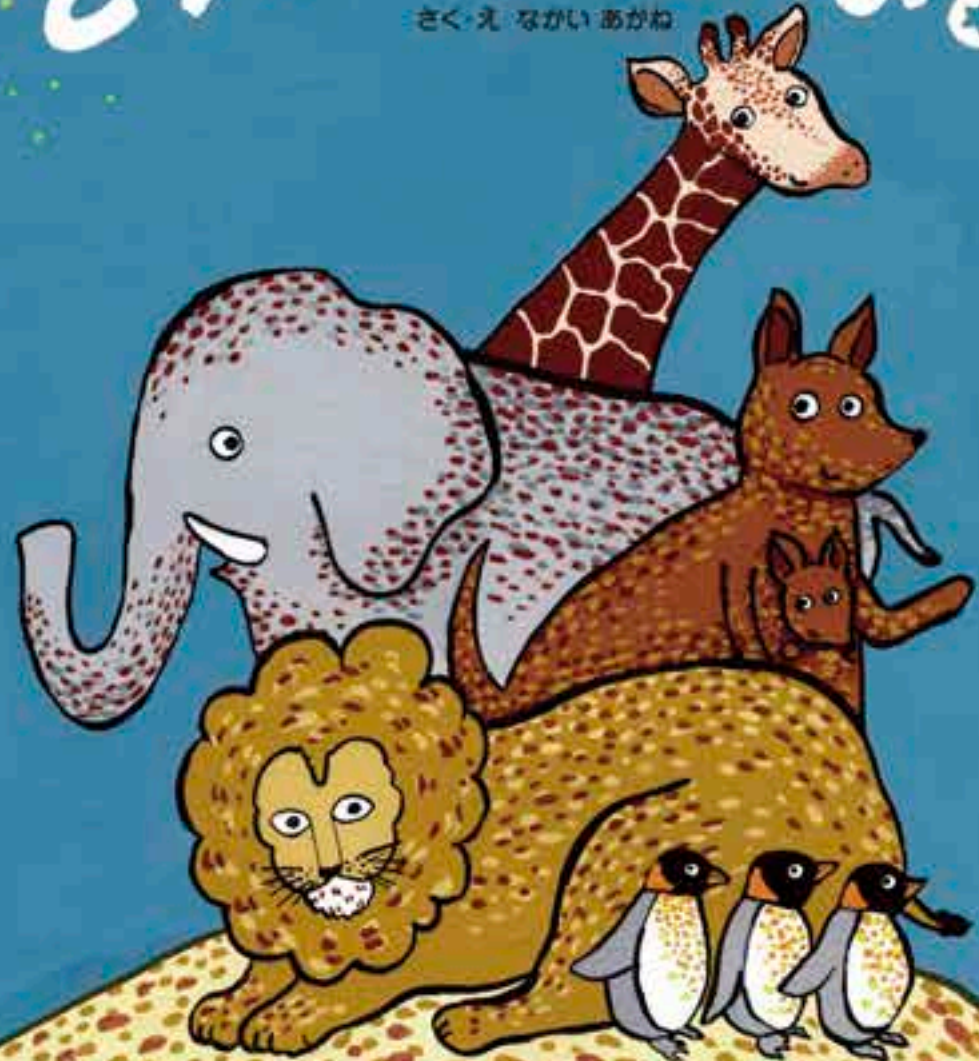
11V0039 才野星奈

ふんばりまのちね

どうぶつえんのよる

さく・え ながいあかね

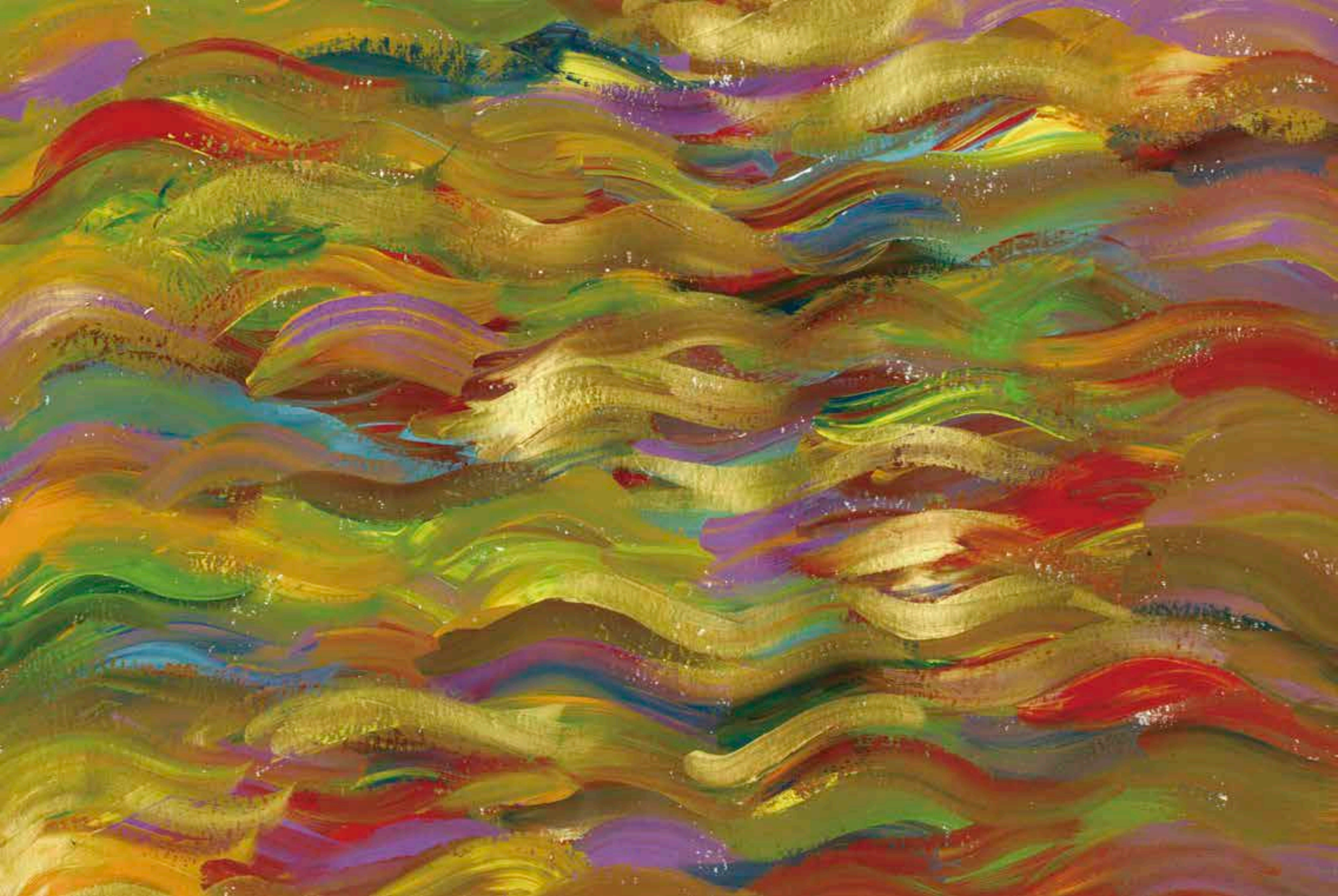
ながい
あかね



どうぶつえんによる



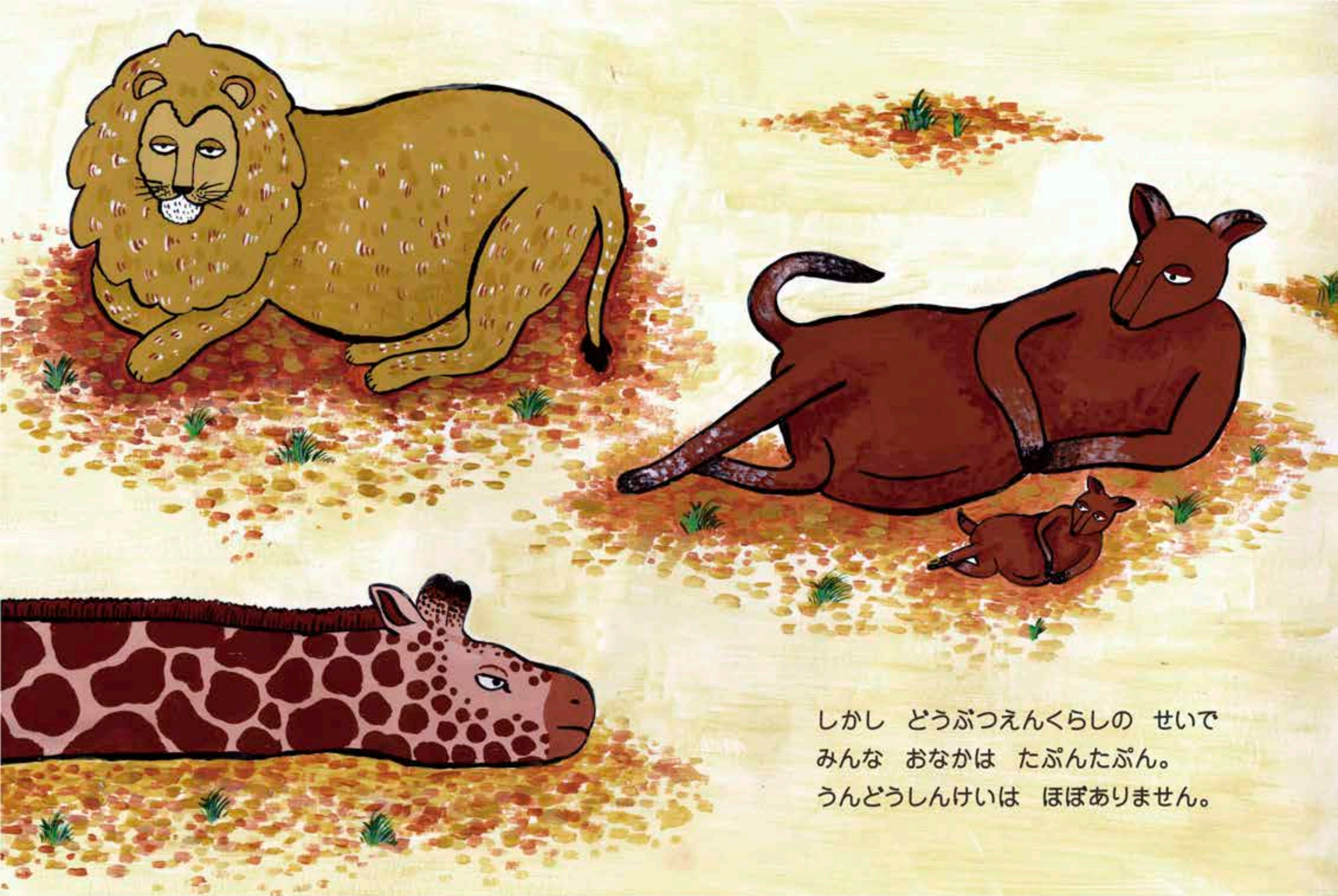
さく・え なかいあかね





とある どうぶつえん。
どうぶつたちは なかよく くらしています。
ここにいる どうぶつたちは ある ゆめをもっていました。
それはこきょうにかえることです。





しかし どうぶつえんくらしの せいで
みんな おなかは たぷんたぷん。
うんどうしんけいは ほぼありません。

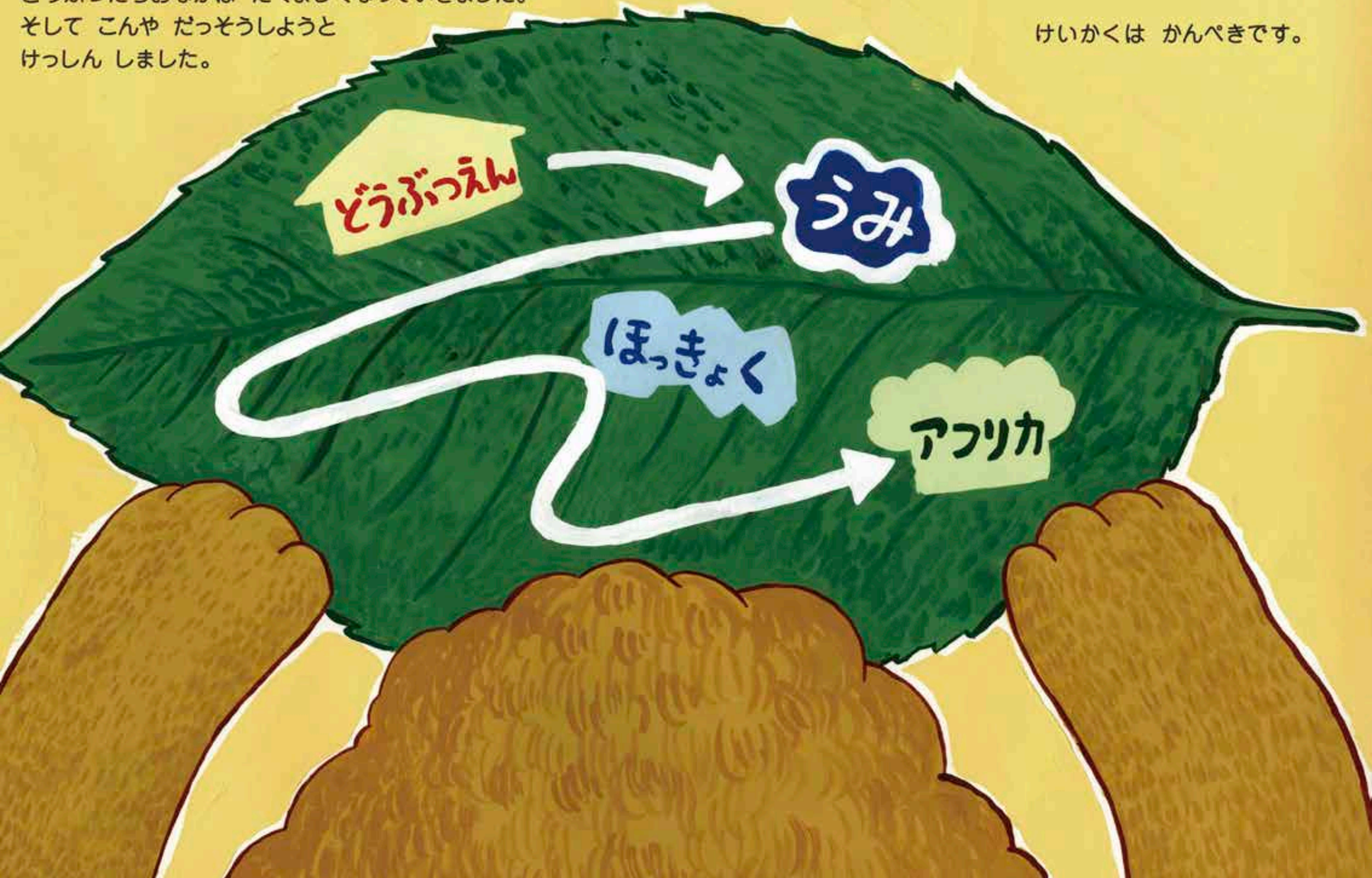


このままでは だめだと おもった どうぶつたちは
よなよな トレーニングを はじめました。

トレーニングの ほうほうは みんな それぞれ ちがいました。

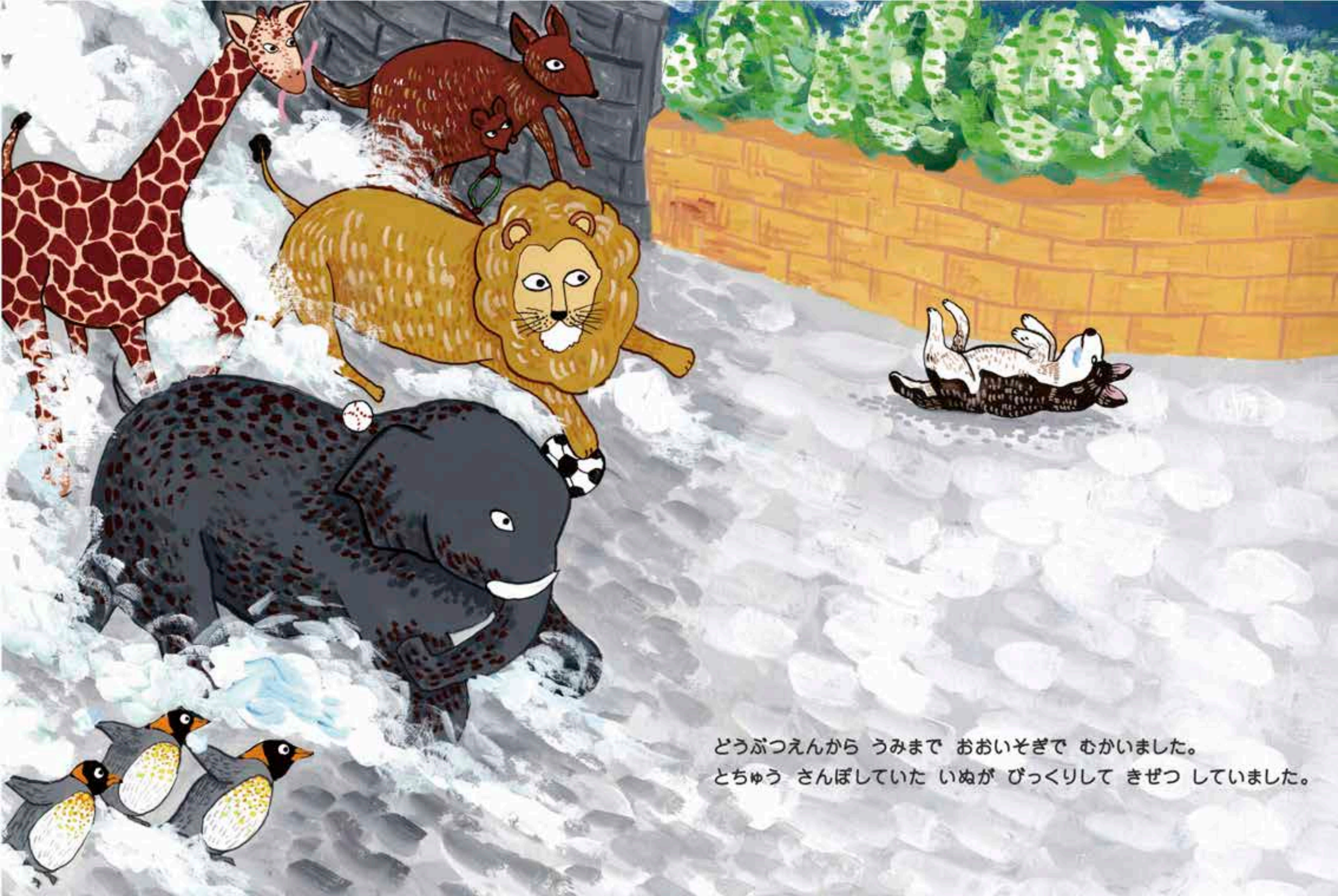
どうぶつたちおなかは たくましくなっていました。
そして こんや だっそうしようと
けっしん しました。

けいかくは かんぺきです。

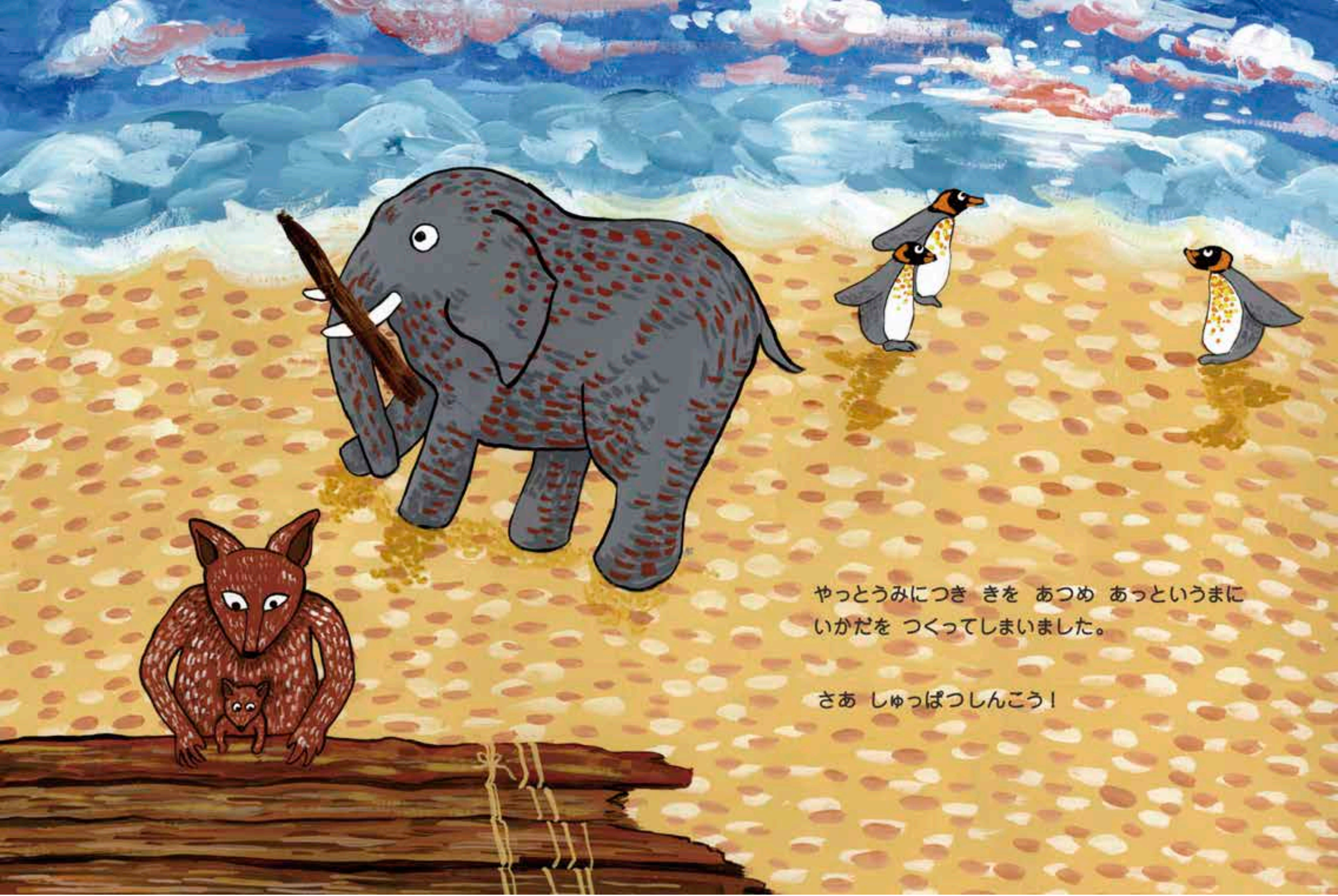


よる どうぶつたちは じぶんの おきにいりの おもちゃをもち
かるがると さくを のりこえました。
ひびの トレーニングの けっかが でしたようです。





どうぶつえんから うみまで おおいそぎで むかいました。
とちゅう さんぼしていた いぬが びっくりして きぜつ していました。

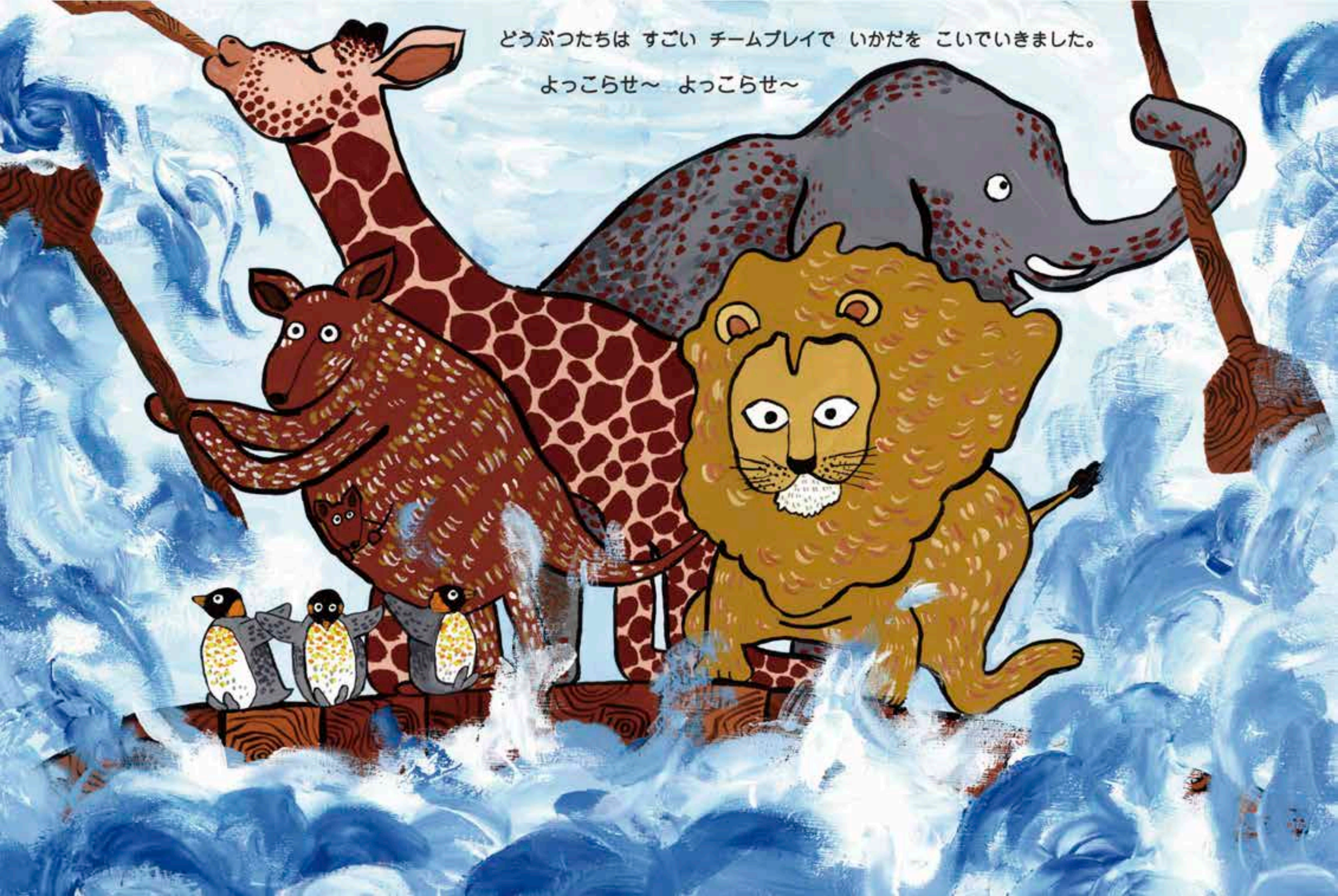


やっとうみにつき きを あつめ あっというまに
いかだをつくってしまいました。

さあ しゅっぱつしんこう!

どうぶつたちは すごい チームプレイで いかだを こいでいきました。

よっこらせ～ よっこらせ～





ほっきょくに つきました。
ここで ペンギンさんたちは おわかれです。
「さようなら～！またあえると いいね～！」
そしてふねは しゅっぱつしんこう。

おつぎは アフリカです。
のこった みんなは そこで おります。
みんなすこし つかれたようで
ちいさなしまで きゅうけい しました。



げんきになったところで またまた しゅっぱつしんこう。

アフリカまで あとちょっと!

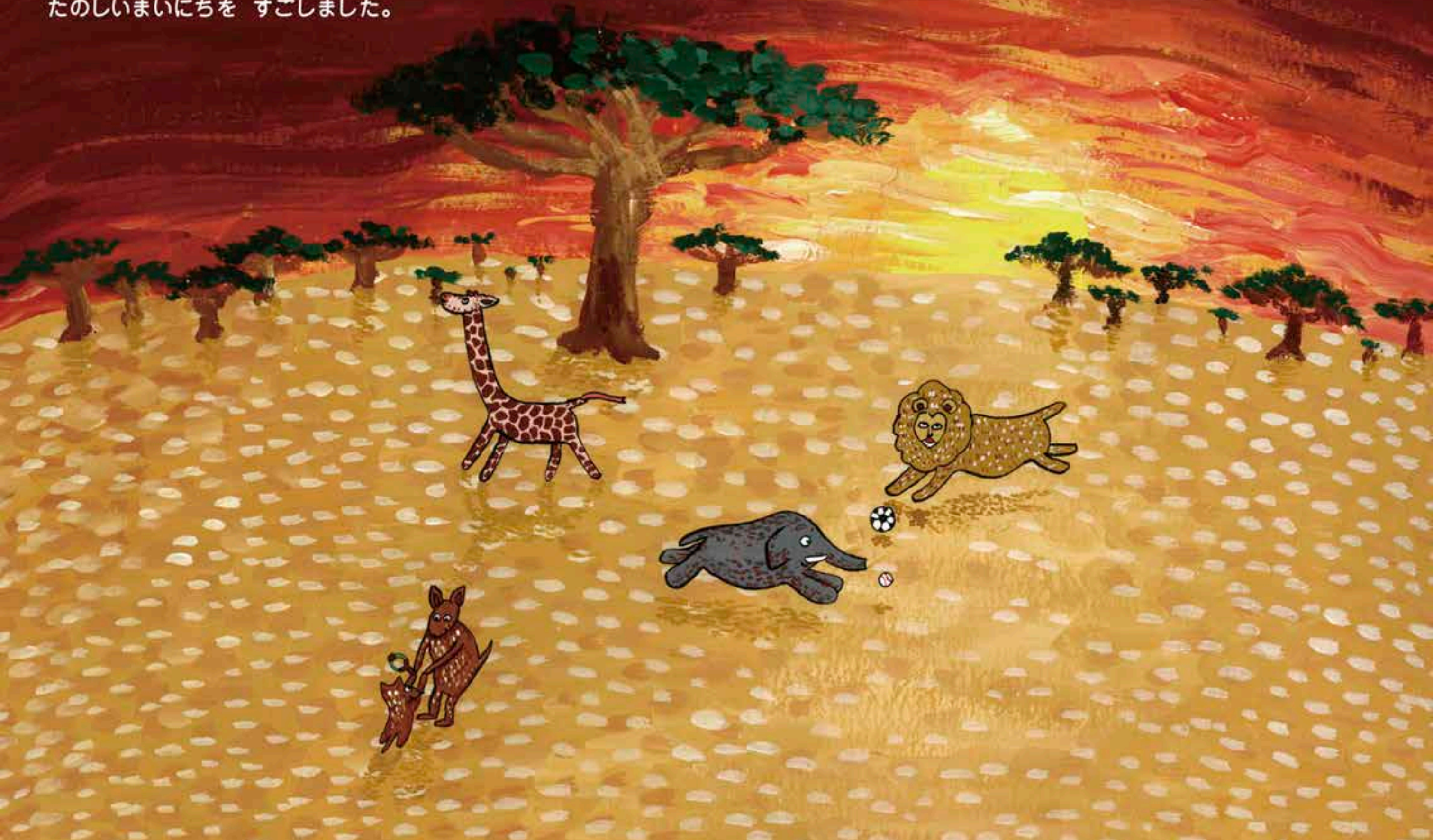
よっこらせ~よっこらせ~



ついに アフリカに つきました！ みんなおおよろこびです！



それから どうぶつたちは
まいにち アフリカの だいちをかけまわり
たのしいまいにちを すごしました。





どうぶつえんによる さく・え なかい あかね

2013年8月3日 発行 12V0059 中井 茜 / 第1刷 ねこねこ書店